



公立大学法人  
山口県立大学  
Yamaguchi Prefectural University

やまぐち

# 森の桜

2013.10 第12号

通信

山口県立大学広報誌



【特集Ⅰ】

## 地(知)の拠点整備事業 (大学COC事業)

この半年の出来事

【特集Ⅱ】

## YPUドリームアドベンチャープロジェクト

- 研究室紹介
- 講義紹介
- 相談の森
- 学生紹介
- サークル紹介
- 国際交流
- トピックス

# 地域の中核的存在へパワーアップ！

## - Center of Community 構想 -



事業責任者  
附属地域共生センター所長  
加登田恵子

附属地域共生センターを中心に展開してきた様々な地域貢献活動を更に加速化するため、この度、文部科学省が創設した「地(知)の拠点整備事業(以下大学COC事業)」に応募し、見事採択されました。

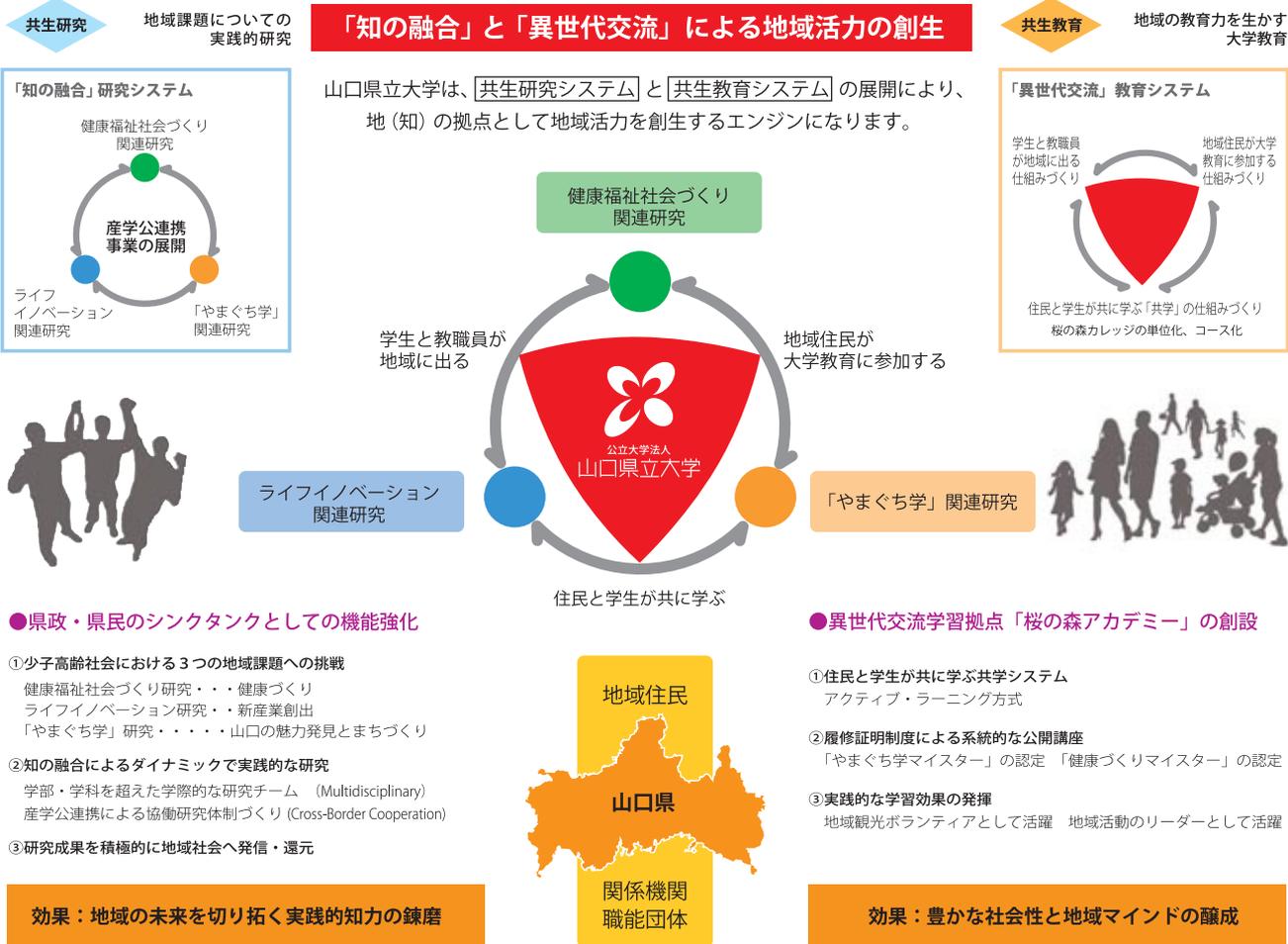
大学COC事業とは、文部科学省の大学改革政策の重点項目の一つであり、大学の地域の中核的存在(=Center of Community)としての機能強化を図ることを目的とした事業です。

少子高齢社会の大学は、もはや若者のための教育機関という域を超え、学ぶ意欲のある多世代の老若男女や新しい情報や発想を求める地元企業の皆さんが集い、相互に刺激を与え合うことを通じて、現実的な地域課題に取り組み、地域の元気を生み出す拠点となることが期待されています。

本事業によって、今まで以上に、学生や教職員と共に多くの地域住民や自治体職員、民間企業の皆さんが、楽しそうにキャンパスを行き交う場面が増えていくことでしょう。

本学が、地域の皆さんにとって、もっと身近に、もっとお役に立てる存在になるための第一歩にしようと、全学をあげて取り組みたいと思います。

### 概要図



#### ●県政・県民のシンクタンクとしての機能強化

- ①少子高齢社会における3つの地域課題への挑戦  
健康福祉社会づくり研究・・・健康づくり  
ライフイノベーション研究・・・新産業創出  
「やまぐち学」研究・・・山口の魅力発見とまちづくり
- ②知の融合によるダイナミックで実践的な研究  
学部・学科を超えた学際的な研究チーム (Multidisciplinary)  
産学公連携による協働研究体制づくり (Cross-Border Cooperation)
- ③研究成果を積極的に地域社会へ発信・還元

#### ●異世代交流学習拠点「桜の森アカデミー」の創設

- ①住民と学生が共に学ぶ共生システム  
アクティブ・ラーニング方式
- ②履修証明制度による系統的な公開講座  
「やまぐち学マスター」の認定 「健康づくりマスター」の認定
- ③実践的な学習効果の発揮  
地域観光ボランティアとして活躍 地域活動のリーダーとして活躍



本事業の採択は、本学が名実ともに「地域貢献型大学」として認められた証しです。事業のねらいは、学長のリーダーシップの下、大学のガバナンス改革の推進と、各大学の強みを生かした大学の機能



山口県立大学学長  
(理事長)  
江里 健輔

別分化の推進です。これにより、各大学の特徴が明確になり、本学は「地(知)」の拠点として「存在感ある大学」に発展できると考えています。

関係者の方々にご心よりお礼申し上げますとともに、今後の事業遂行にご尽力賜りますようお願い申し上げます。

### ●事業概要

- ・事業名称 「知の融合」と「異世代交流」による地域活力の創生
- ・事業期間 平成25年～29年度
- ・連携自治体 山口県
- ・事業内容 産学公の連携を強め、県政課題に積極的に対応するため研究部門を組織するなど、学際的な知の融合を図る「共生研究システム」と異世代交流をキーワードに、「桜の森アカデミー」創設による学生と県民の交流学習を進めるなどの「共生教育システム」を構築・展開することで、山口県の「地(知)の拠点」として地域活力を創生します。

### ●事業への応募・採択状況

- ・全国 応募：319件  
採択：52件(短大・高専含む)
  - ・大学 応募：289件  
採択：51件(国立22、公立14、私立15)
- ※県内での採択は山口県立大学のみ  
※文部科学省Webサイトより

● **共生研究部門** では、少子高齢化先進県である山口の3つの地域課題解決に向けて、学部学科を越え、さらに産学公が積極的に連携した学際的研究チームで挑み、シンクタンク機能を高めます。

#### 受託研究・共同研究も引き続き行います。

##### 受託研究

- 宇部市ブランド「おひとつイカ？」のラベルデザイン (酒井雄治)  ※これまでの研究事例( )は委託元  
日刊工業新聞社主催 第6回モノづくり連携大賞「特別賞」受賞
- 奇兵隊の隊服制作 (NPO法人全国晋作連合会)  写真と同じポーズで撮影
- 「エネワンソーラーパーク」のパンフレットデザイン (エネワンソーラーパーク 防府共同事業体)  デザインした学生たちも竣工式に出席
- 木製家具のブランディング ~家具工房鳳山堂のブランディングにおける実践的研究~ (有限会社 鳳山堂)
- 共生のまちづくりに向けてのバリアフリーマップ作成 (山口市) 
- 地域観光資源の保存 ~SLを活かした地域づくりに関する調査と提言~ (山口商工会議所)

##### 共同研究

- 山口市仁保地区の古民家(帰郷庵)を活用した食育プログラムの検討 (仁保まちづくり推進協議会)
- 「ふれあい・いきいきサロン」活動の普及促進方法に関する研究 (山口市社会福祉協議会 阿知須支部) 
- 乾物に関する若者(大学生)の利用実態と家庭料理への普及啓発の検討 (株式会社 木原製作所) 企業との話し合いの様子

● **共生教育部門** では、新たに「桜の森アカデミー」を創設します。

「桜の森アカデミー」では、アクティブ・ラーニングの方式で、学生と地域住民が相互交流しながら共に学びます。そして、所定の120時間以上のコースを修了した人に、大学公認の「マイスターの認定書」を授与いたします。初年度は、下記の2つのコースを開設する予定です。(詳細については、今後、本学ホームページでご案内します。)

- ・「やまぐち学マイスター」マイスターとなると県内各地域の観光協会に所属し、国内外の観光客に山口の魅力を発信できる、ひと味違ったボランティアガイドや修学旅行ガイド等の育成を目指します。
- ・「健康づくりマイスター」レクリエーションやヒーリングの技能を備えた、地域の「子育て支援サークル」や「高齢者のいきいきサロン」のリーダーとなる人材育成を目指します。



### ●お知らせ

平成25年11月、山口県政資料館内にCOC事業の推進室をオープン予定!

山口市滝町1-1 (県庁敷地内)



# ▶▶▶▶ YPU New Wave

## この半年の出来事

今年3月から9月までの主な出来事について、報道発表(ニュースリリース)したものを中心に紹介します。

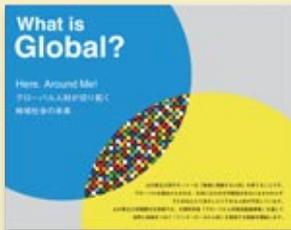
### 3/26

#### ○「社会福祉法人恩賜財団済生会支部山口県済生会」との包括的な連携協力に関する覚書調印式

社会福祉実習教育を通じて、地域の福祉の増進及びソーシャルワーカー養成を目的とした協力関係を形成し、地域の総合的な福祉の発展に寄与するために覚書を締結しました。今後は、学生がボランティア活動を通じて交流を図ったり、共同研究を行うなど連携・協力を進めていきます。



調印式の様子



基調講演講師：アーサー・ビナード氏

### 3/29

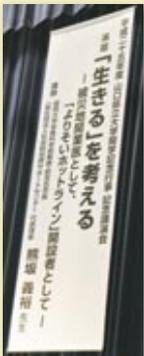
#### ○グローバル人材育成推進事業キックオフ・フォーラム開催

文部科学省「グローバル人材育成推進事業」の開始を記念し、「キックオフ・フォーラム」を本学講堂で開催しました。「グローバル人材になるためには」をテーマにしたパネルディスカッションや基調講演などを行いました。学生主催の「グローバルカフェ」では、民族衣装を着た学生が来場者にフェア・トレードのコーヒーや紅茶をふるまいました。

### 4/2

#### ○平成25年度入学式

雨ながらも桜が咲き誇るキャンパスで、学部生330名、大学院生21名、別科生10名、計361名の入学式を挙行了しました。



講演会講師：熊坂義裕氏

### 5/15

#### ○山口県立大学開学記念行事

開学72年を記念し、開学記念日である5月15日に開催しました。名誉教授称号授与や感謝状贈呈、職員・学生表彰などの式典の後、「『生きる』を考える」をテーマに講演会を行いました。



新入生代表による入学生宣誓  
(国際文化学部文化創造学科 重田あおいさん)

### 5/28

#### ○山口県立大学学業成績優秀者奨学金目録贈呈式

「山口県立大学学業成績優秀者奨学金」とは、学部学生の教育の成果を評価し、学生の学習意欲を高めることを目的に、特に優秀な学生に対して年間10万円の奨学金を給付する制度です。

今年度は、17名が選ばれ、学長から、一人ひとりに目録が贈呈されました。



目録贈呈式後の記念撮影

### 6/1

#### ○山口県立大学学園祭「水無月祭」・夏の初めのオープンキャンパス

水無月祭伝統の騎馬戦に、「桜会会長杯(同窓会)」が新設され、男女それぞれの優勝学部に記念品が贈呈されました。雨にも関わらず、同時開催のオープンキャンパスにも多くの来場者があり、各種ステージイベントや模擬店などで賑わいました。



午前部(体育)・歓喜の胴上げ

### 6/7

#### ○韓国・聞慶(ムンギョン)市との国際共同研究にかかわる協約の締結

大学院健康福祉学研究科を中心に、韓国・慶北大学校、米国・ハワイ大学と共同し、アジア・太平洋地域における百歳予備群(70~99歳)の健康生活をテーマとした国際共同研究に取り組んでいます。今後の調査等を円滑に実施するため、韓国・聞慶市との間で研究活動にかかわる協約を締結しました。



締結式の様子(右が副学長)





和紙作り、オブジェに取付けるランプシェード作り



## 7/5~6

### ○徳地和紙・中山間地域活性化プロジェクト 和紙作家ロギール氏によるプレゼンテーションとワークショップの開催

「徳地和紙」をキーワードに、学生が地域に出かけて地域の人々と共同で活動するという創作研究の一環として、高知・構原和紙を代表する作家ロギール・アウテンボーガルト氏をお招きし、プレゼンテーションやワークショップを通じて、和紙による造形の魅力や可能性について考えました。地域の方々と一緒に「光る和紙オブジェ」を制作しました。

※ 山口県の「中山間地域元気創出総合支援事業(集落支援事業)」を活用した取組です。

## 7/13~14・8/25

### ○真夏のオープンキャンパス・夏の終わりのオープンキャンパス

高校生やその保護者の方を対象に本学のキャンパスを開放し、学部・学科紹介、模擬授業、各種相談会などを実施しました。

夏の初め(6/1)から真夏・夏の終わりまで計3回のオープンキャンパスを開催し、多くの方にご参加いただきました。



オープンキャンパス会場へ向かう高校生



交流プログラムの様子

## 7/26~31

### ○「インスパイア・ジャパン2013」地域プログラムに参加

ボーイスカウト日本連盟主催の「インスパイア・ジャパン2013」は、世界32カ国のスカウトを日本へ招聘し、国際交流体験を通して互いに理解を深めることを目的としています。地域プログラム「インスパイア・ジャパン in 山口」に本学学生も参加し、9カ国のスカウトたちと交流を深めました。

## 7/30 ○平成25年度海外スタディツアー出発式(前期)

文部科学省「グローバル人材育成推進事業」の一環として、海外スタディツアー(海外研修・実習プログラム)を実施しています。出発式は、本学学生としての自覚や、国の奨学金を受けてプログラムに参加することへの使命感を持たせた上で、勉学及び国際交流等に努めてもらうことを目的として行いました。学長から、海外スタディツアーに参加する学生(代表10名)に対して、派遣証が授与されました。(派遣学生48名)



派遣証授与の様子



ボランティアセンターの方から説明を受けている様子

## 8/8~12

### ○災害ボランティア活動(7月28日 山口県大雨災害)

社会福祉学部の学生を中心とした災害ボランティア実行委員会「ぶちボラYP勇氣」が中心となり、山口市と萩市へのボランティア派遣を実施しました。期間中は、本学からボランティアバスを運行し、のべ68人の学生が、主に泥出しや掃除などの支援活動を行いました。(協力:山口県共同募金会)

## 8/20~22

### ○小学生のためのなつやすみの宿題楽しく学ぼう会

今年度で6回目となったこの取組は、本学学生ボランティアが先生となり、地域の小学生の宿題をサポートするものです。勉強だけでなく、専門性を活かしたお楽しみレクリエーション等、工夫を凝らしたプログラムで、約30名の小学生が楽しみながら元気に学びました。約30名の学生が企画・運営に携わりました。



お楽しみレクリエーションタイムの様子



市中コミュニティホールNac前広場にて(山口市中心商店街)

## 9/1

### ○山口市荒高地区「もりさま祭り」への参加 ~高大連携によるやまぐち多世代交流・地域共生授業の展開~

本学と野田学園高等学校との連携・交流事業の一環として、共通教育科目「地域共生演習」を履修する学生たちが中心となり、「もりさま祭り」のみこし神幸を女みこしとして復活させる取組を行って、今年度で7年目となりました。双方からみこしの参加者を募るだけでなく、祭り全体の企画・運営にも本学の若い力(日本人学生・留学生)を導入するなど、地域の祭り及び伝統の存続・活性化のモデル的な取組となっています。(参加学生18名、高校生32名)

# 学生がきらめく大学であるために

YPUドリームアドベンチャープロジェクトとは、大学生活をさらに楽しく豊かにするために、学生（個人やグループ）が自主的に企画・運営する独創的で魅力的なプロジェクトに対して、大学が費用を助成することで夢の実現を支援する事業です。

2006年度から始まった取組みも、今年度で8年目を迎えました。毎年、学生たちの新しい発想によるさまざまなプロジェクトが大学を活気づけています。

## 着物喫茶&宮野徒歩ツアー

（「県立大学と地域をつなぐ、“着物喫茶”企画」&  
「宮野の宰相、寺内正毅ゆかりの地をめぐる徒歩ツアー企画」）

この企画は2011年に開始され、YPUドリームアドベンチャープロジェクトを終了した現在でも毎年開催されています。宮野の皆さんにも、すっかりおなじみの企画になりました。

「着物喫茶」では、地域交流ステーション宮野（宮野駅）を会場として、おいしいお菓子とお抹茶を用意し\*、学生が着物姿で地域の方をおもてなしする企画です。宮野駅はSLが通ることから、趣味の交流の場として、また、着物を着たいけれど着て行く場所がないという方からも好評を得ています。多世代交流が出来る場として、開催時はいつも素敵な笑顔であふれています。着物喫茶と併せて、他のプロジェクトやサークルもコラボするなど、企画に花を添えています。（コラボ例：宮野出身のシンガーソングライター（在学生）ライブ、紙芝居プロジェクト、県大アイドルプロジェクト、マンドリンクラブ、よさこいサークル等）

「徒歩ツアー」では、宮野の宰相「寺内正毅」ゆかりの地を学生ガイドがご案内します。今まで何気なく見ていた宮野地域の文化的な建物等の価値を再認識するとともに、寺内正毅についてクイズで楽しく学びながら、地域への理解と愛を深められる良い機会となっています。

\*お抹茶とお菓子（地元の和菓子店への特注品）は、宮野地区地域づくり協議会等の地域団体からの協賛によるものです。



「おいでませ紙芝居へ」企画  
(2012年度採択)とコラボ

ライブ風景

### 採択プロジェクト 2013

- 東北復興支援プロジェクト**  
 東日本大震災の風化を防止することなどを目的に、山口で“私たちにできること”を考え、地域や学内、市内の高校生にボランティア活動を行うきっかけ作りとなるような企画を実現させる。
- YPU SWEETS PROJECT**  
 学外への土産として利用されている「YPU クッキー」の問題点（賞味期限が短い、大学でしか販売されていないなど）を改善し、新たな企業との連携による大学 PR 菓子の開発と、県内での販売を目指す。
- 地域につながりをもたらす「犬カフェ」プロジェクト**  
 「人も犬も食べられるお菓子」を試作、同お菓子のお披露目の意味で宮野地域の公園を会場に周辺住民がペットを連れて集まる「犬カフェ」を開催し、宮野地域の繋がりを深める。
- YPUマーケット**  
 学生や地域の方の家に、使わないものやいらぬものを提供してもらい、大学でフリーマーケットを開催。地域の人々と協力して商品を開発するなど、喜びを分かち合う。
- 県大ってこんなところ！県大生ってこんな人！in summer**  
 地域の子ども達と本学の学生が様々な方法で触れ合うことで、大学と地域が親密な関係を築く架け橋となり、本学の基本理念の一つ「地域社会との共生」の充実を図る。
- Halloweeeeeeen!!～Jack-o'-LanternとTrick or Treat～**  
 本学と宮野地域の小学生が、ハロウィンのかぼちゃランタン作り、仮装行列、パンプキンパイの制作などのイベントを行って楽しむことで、異文化を知ると共に交流を深める。
- 笑顔でつながるプロジェクト**  
 宮野地域の人・学生・教員の“笑顔”を写真で集め、1つのアートにし大学祭で展示。写真を撮る際・写真と写真・アートを見に来てくれた人との「3つの繋がり」のコンセプトの下に、“笑顔”の持つ力で宮野を元気にする。

スケジュール

4月上旬～5月中旬  
募集期間

5月下旬～6月上旬  
選考会  
(プレゼンテーション)

6月中旬  
選考結果発表

11月  
中間報告

1月下旬  
成果報告会・  
報告書提出



## ◆YPUドリームアドベンチャープロジェクトのこれまでの歩み

2006（平成18）年、法人化を契機に、学生の自主的な活動を促進するために設けられた学生向けの学内助成制度です。初年度は10月に募集が開始され、11月下旬に採択プロジェクトの発表、その後の約3か月での活動を2月下旬に報告するという大変厳しい状況ではありましたが、5件が採択されました。



成果報告会の様子

「学問のゆのみ」（目的：オリジナルの湯飲み（萩焼）を作成。山口の思い出に卒業記念品として配布したり、大学グッズとして販売する。）

## ◆YPUドリームアドベンチャープロジェクトのその後

2007 年度採択（平成19年度）

### 「ゆかたで華麗に踊り隊」

山口祇園祭りの中に山口市中心商店街で開催される「市民総踊り」に県立大学の学生・留学生・職員が参加し、地域活性化に貢献しようという目的で、共通教育科目「地域共生演習」受講生有志からはじまったプロジェクトです。この年はじめて県立大学チーム約70名が市民総踊りに参加しました。今ではおなじみとなった赤いハッピーや口ゴ入りのぼりは、このプロジェクトから誕生しました。現在では「地域共生演習」受講者全員で市民総踊りに参加しています。



2013.7.24

2008 年度採択（平成20年度）

### 「お弁当の日」（大学生の食意識向上を目指した交流の場の提供）

栄養学科の学生を中心に、大学生の食意識を向上させ、料理を作るきっかけ作りを目的としたプロジェクトです。毎回テーマを設定し、そのテーマに沿ったおかずをそれぞれが持ち寄って食べる会を毎月開催するものです。現在では、栄養学科の学科内サークルとして活動しています。今年度は「健康」をテーマに活動しています。8月には食事を手作りすることで自らの健康を作っていく力を身に付けてもらうことを目的に料理教室を企画し、他学科の学生にも参加を呼びかけました。



2013.8.7

2009 年度採択（平成21年度）

### 「YPU TFT PROJECT～ともにFuれあいTsuなごろう」

2009、2010年の2年間にわたり、採択されたプロジェクトです。健康に配慮したヘルシーメニュー1食につき20円を開発途上国の学校給食1食の費用として寄付する「TABLE FOR TWO」という全国的な活動を通して、大学から国際社会へとつながりを広げていくことを目的としたプロジェクトです。8月には、初企画の「Walking For Two」を開催。これは「世界を変える1歩目は、あなたの足で、山口で。」をテーマに「山口から新たな国際協力の旋風を巻き起こそう!」と企画された、山口の自然の豊かさを活用した独創的なイベントです。県内外から65名の参加者があり、大成功を収めました。



2013.8.19

2010 年度採択（平成22年度）

### 「YPU SWEETS PROJECT」

栄養学科の学生たちが、現在販売されているYPUクッキーに並ぶ新たなお菓子を開発することを目的に2010年に企画されたプロジェクトが始まりました。開発した「YPUパウンドケーキ」は、プレーン、小野茶、夏みかん、きなこの4種類12個入り、1箱1000円で期間限定販売を行いました。その後、2012年には、血糖コントロールを必要とする糖尿病患者さん向けの1個80kcalでも満足感のあるロールケーキとマドレーヌを開発、小児糖尿病キャンプや糖尿病患者会で紹介しました。今年度はコンセプトを変え、製菓メーカーとタイアップした賞味期限の長い土産菓子の開発を目指しています。



2012.9.29



2011 年度採択（平成23年度）

### 「災害ボランティア実行委員会「ぶちボラYP 勇気」わたしたちができること～災害ボランティア啓発活動」

東日本大震災の復興に向けて、以前から交流のあった岩手県立大学との連携のもとに「私たちにできること」を考え、ボランティア活動を実行する機会を作ることを目的に企画されたプロジェクトです。メッセージうちわ、シュシュ（髪留め）の作成・送付、安全ブザーの収集・送付、アロマを使ったハンドトリートメントの実践のほか、地域のボランティア団体との共同での活動も行いました。今年度は、7月28日の山口県大雨災害のボランティア活動で中心となって活躍しました。現在も活動は継続中です。



2013.8.9

### ろくろ外に参加した学生の声

- ・地域の方々とつながりの素晴らしさを感じることができた。
- ・メンバーと協力し合い、時にはぶつかりながらもベストなものを作ろうと頑張れた。
- ・大学への関心も増し、自分たちが努力すれば、何だってできる大学だと感じた。

# Welcome to LAB

## 研究室紹介

国際文化学部 国際文化学科  
地域学研究室  
教授 安溪 遊地



「いつもビデオを持ち歩くようにしています。」

私にとっての地域学は「地域こそ教室、地球がまるごとキャンパス」とみなし、さまざまな現場の課題とその解決を実践を通して学ぶものです。スペイン・フランス・沖縄などで長く暮らした経験と山口での“自然生活”の魅力も伝

えます。新入生とは、マスコミや専門家の言うことを鵜呑みにしないための「環境問題」や、大学を飛び出してホームステイしたりする「地域共生演習」などの授業で出会うでしょう。2年生からは、「フィールドワーク実践論」「地域実習」といった、地域との関わり方を具体的に学ぶ授業を担当しています。

私はコンゴ民主共和国の森の村で養子にしてもらったため、“在日アフリカ人”と自称していて、この原稿もガボン共和国で書いています。「アフリカ社会文化論」ではその魅力を伝えています。「地域実習」ではアフリカ行きも可能ですが、毎年日本語資料整理のお手伝いに台湾大学図書館に出かけています。3年生の「専門演習」で安溪ゼミを選択すれば、まず大

学の森で椎茸を育てる「おいしいたけ」プロジェクトを楽しみ、大学と提携している山口市徳地や阿東・防府市富海などで地域の活性化に取り組むみなさんの所に出かけます。

韓国・スペイン・アメリカ・ニュージーランドなどへ長期留学するゼミ生も多く、自分の故郷との対比から素敵な卒論が生まれたりします。卒業後は、サービス業、公務員、ゼミでの農業体験を生かしてJA、青年海外協力隊などが主な進路です。



宜蘭県立蘭陽博物館（台湾）で地域実習生と空を飛ぶ練習

看護栄養学部 看護学科  
成人看護学(慢性看護学)研究室  
講師 中谷 信江

私の研究室は、来学した皆さまにお城のようだとと言われる看護棟5号館の3階にあります。廊下の窓からは、キャンパス全体が見渡せ、眺望が良い場所です。

私は、「成人看護学」の中でも主に「慢性の経過をたどる対象の看護」を担当しています。「成人看護学」は10代後半から65歳前後の成人期にある人々を対象としています。健康レベルに応じて、健康保持・疾病予防をする援助、治療を必要とする対象への援助、健康の再構築を必要とする対象への援助等、多岐にわたり複雑です。現実には、対象を成人に限る

ことは難しいため、成人に限らず老年期にある方々も含めた人々の健康保持・疾病予防をする援助や慢性の疾患を持つ人々の看護について教育・研究し、深めていきたいと思っています。

これまでのゼミ生の卒業論文テーマは、「大学生のがん予防に対する知識・行動」「行動変容ステージに合わせた個別のMS(メタボリックシンドローム) 予防支援の効果」「職場内健康づくり教室の検討～健康づくりの取り組み“人生楽しんでよる!?”参加者のインタビューから～」などです。今年度は、慢性腎不全という疾患の方の援助に関する卒業論文に取り組んでいます。透析療法の一つで

ある「腹膜透析」は、自分で実施する治療法であり、自己管理がとても大切です。しかし、その手技は機材等を使用する複雑なものとなっているため、わかりやすい教育教材を開発中です。今、学生たちは、対象者の方々がその手技を“これならできそう”と思えるためにはどうしたら良いのかを真剣に考え、私も一緒に議論しながら、試行錯誤しています。教材の完成が楽しみです。





# ▶▶▶▶ Watch Lecture

## 講義紹介

### 病態栄養学実験

看護栄養学部 栄養学科  
講師 加藤 元士

「病態栄養学実験」は、栄養学科2年次後期に開講されている科目です。学生は2年次前期までに「基礎栄養学」をはじめ「生化学」、「人体の構造と機能」等の科目で、栄養素の代謝の仕組み、人体の構造や調節機能等の基礎的な知識を学びます。この実験では、それらで学んだ知識や理論を基に、マウスや自分自身を対象として、教員のサポートの下でグループごとに課題を決めます。そして、課題を明らかにするための調べ学習や自主的展開による実験を通して、生体への理解を深め、疾病の病態と成因の理解へ応用す



る力を身に付けることを目的としています。マウスを用いた動物実験も行いますが、学生は適切な飼育管理方法及び実験手技だけでなく、マウスを日々飼育することにより病態を観察し、実際の臓器等を目にして体の仕組みについて深く学ぶことが出来ます。

グループごとに課題は異なりますが、e-ラーニングシステムのムードルを使用して各課題の事前学習を行ったり、実験前・中間及び実験終了時に各グループの発表や質疑応答を

行ったりすることで、他のグループが行っている実験についても、「何の目的で」、「どのように計画・実施し」、「どのような結果が得られ考察したか」を全体で共有できるように工夫しています。

この科目を通じて、学生達が病態への興味・関心を高めるとともに、幅広い知識を習得し、自ら問題解決する能力を身に付けることが出来るよう、これからも取り組んでいきたいと思ひます。



# ▶▶▶▶ Consultation 相談の森

皆さんから寄せられたさまざまなご質問に、専門領域の本学の教職員がお答えします。



日本で最初に発見された弥生時代の「土笛」が、何と、山口県の遺跡から発掘されたと聞きました。もっと詳しく教えてください。[男子小学生]



発掘された場所は山口県下関市、日本海が見渡せる綾羅木郷台地にある弥生時代前期の遺跡です。1966年、日本で初めて約2000年前の「土笛」が発見されました。

ニワトリの卵を大きくした人間のこぶし大、上に吹口、前に4つの指穴、後ろに2つの指穴、計7つの穴が開いた卵型で不思議な形の素焼きの土笛です。余談ですが、同遺跡から大量のふぐの骨が発見されたそうです。今や山口県を代表する魚ですが、調理法も確立していない弥生時代に、どうやって食していたのだろうか不思議です。

弥生文化の源流は中国、朝鮮半島を含む地方であったと考えられています。綾羅木で発見された土笛と同じ形の笛が中国、韓国に有り、海を越えて下関の地に渡来し、祭り事に吹かれたのではと考えられています。

日本、中国、韓国、この三ヶ国の交流は、今ではトライアングル交流と呼ばれ盛んですが、約2000年前に人々は荒れた響灘を渡り命がけで文化を運んだのです。出土品は下関市立考古博物館（綾羅木）で見える事、音色を聞く事もできます。小さな土笛の旅を想像するだけでワクワクします。ちなみに、考古博物館で流れている音楽は私が演奏、再現した曲です。是非、聴いてみてください。



国際文化学部 文化創造学科  
教授 田村 洋  
(専門領域: 音楽)

# ▶▶▶▶ Interview <sup>Student's</sup> 学生紹介

## いま、キミは輝いて

### 地域とのつながりを大切に

国際文化学部  
国際文化学科3年  
おがわ だい き  
**小川 大貴さん**  
【宮野地域学生企画代表】



地域の人と学生が交流できる場は作れないかと、「着物喫茶」を始めたのは1年生の頃でした。この活動では、今ではあまり着られなくなった着物をきっかけに、お話ができる場所を設け、お客様にお茶とお菓子を愉しんで頂いています。当初は学内での活動が中心でしたが、回を重ねるごとに地域へも浸透し、昨年度から山口市の事業として活動しています。

私はこの活動を通して、地域とのつながりがいかに大切なものであるかを知ることができました。資金や広報、準備などどれをとっても、地域の支援がなければ今の私たちはありません。お客様から「また来るね」と言われるようになりました。このような人たちのためにも、地域とのつながりや、人と人とのつながりを大切にしていこうと思っています。

また、最近では、地域の方からもお声がかかるようになり、現在レノファ山口FCのカメラマンをしています。そこでは企業の経営など、生の現場を見ることができ、学内だけでは学ぶことのできない多く

のものを得ています。それらひとつひとつを今後の糧として、将来自分のしたい活動へとつなげていきたいと思っています。



地域交流ステーション宮野(JR宮野駅内)にて

### 安全・安心な地域を目指して

社会福祉学部  
社会福祉学科4年  
かわぐち さと み  
**川口 里美さん**  
【防犯啓発グループ 桜SA代表】



私は、山口県立大学の防犯啓発グループ桜SA(オーサ)で活動しています。桜SA※は、学内や地域の防犯の啓発を目的とした団体で、山口県警察の協力を得ながら、防犯意識の向上を目的としたチラシを学生や地域の方に配布したり、地域の行事に参加し地域の方と交流するなど様々な活動を行っています。また、昨年度は、振り込め詐欺等の被害防止キャンペーンとしてラッピングバスのデザインを行い、県内での詐欺被害防止の啓発に努めました。



昨年11月から4ヶ月間、周南・下松地区を運行しました。

最近では、夏休みに本学の学生・職員を対象とした「護身術講座」を開催しました。桜SAの企画としては2回目となりましたが、今回は、学生目線で講座を開催したいという思いから、本学の演劇部に護身術の実演という形で協力してもらいました。県内の他大学でも開催されている護身術講座を、このような形で行うのは桜SA、県警とともに初めての試みでしたが、参加者もより興味を持って参加することができ、防犯について関心を持ってもらえたと思います。

今後も、地域の実情に合わせた活動を行っていくことで、安全で安心できる地域社会を目指していきたいです。

※ 桜SA:桜島セーフティ・アクティビティ



キャンパス内での夏の防犯啓発活動(グッズの配布)を終えて

# ▶▶▶▶ Circle Report

### すみれの会

社会福祉学部  
社会福祉学科3年  
部長  
たかしま もも か  
**高島 百花さん**



### 広めよう、献血の輪

献血推進サークルすみれの会は、主に山口県赤十字血液センターの方と献血ボランティアを行っています。学内では、年二回、学内献血を行っており、今年の6

## サークル紹介

月に行った学内献血では多くの方に献血して頂きました。学外では街頭献血の受付やPRイベントを行っています。また、血液センターで行われる献血の勉強会(セミナー)にも参加しています。

献血は、手術や治療に不可欠な血液を皆さんの善意で確保しています。血液は常に必要とされる状況です。しかし、山口県では10代・20代の献血者数が全国でみるととても少ないのが現状です。すみれの会では、若年層である自分達



七夕献血(イオンタウン防府/山口県)

が、献血のボランティアを行うことで、多くの若い人たちに献血について知ってもらい、実際に献血してほしいという気持ちで日々活動しています。

今後も多くの方に献血について知っていただけるよう活動を頑張っていきたいと思っています。



# Exchange International 国際交流

## ●●海外スタディツアー体験記●●

文部科学省「グローバル人材育成推進事業」の一環で実施している海外研修・実習プログラムです。調査や研修を通して、世界各国の文化・風習を学び、日本国内の地域社会に還元することを目的としています。

～タイ山岳少数民族フィールドワーク～  
(8月19日～31日)

国際文化学部  
国際文化学科4年  
上田 聡子さん



モン族伝統衣装体験

NPO法人シャンティ山口(以下「団体」という。)の佐伯昭夫氏と現地スタッフの方々と一緒に、タイで団体が支援



英語スピーチの様子

している「シャンティ学生寮」への滞在や山岳少数民族「モン族」の村でのホームステイを体験しながら、団体の活動を視察しました。また、チェンライ大学で講義を受講し、英語スピーチを行いました。

今回、この研修に参加したのは、団体が支援している施設などを利用することで、現地の人々



エコトイレ事前学習

のような変化があったのか興味を持ったからです。団体が村の人々と作った「エコトイレ」は、上下水道が整っていない村でも設置でき、環境にも優しいことがわかりました。団体は現地の人々と協力しながら、将来的に彼らが自立できる支援をしていることがわかりました。寮生や村の人々は、現地の言葉



子どもたちとゴミ拾い

ができない私たちに本当の家族のように接してくれ、あたたかさに触れることができました。私たちも何かできないかと考え、村の子どもたちと村のゴミ拾いをしました。村では、ゴミを道や河川に平気でポイ捨てしており、少しでも村の人のゴミに対する意識が変わればと思

い活動しました。日本でも、地震や水害で多くの被災地が存在しますが、本当に必要な支援とは一体何なのかということを考え、理解することができました。この経験を生かして、これからも積極的にこのような活動に参加していきたいです。

## ●●グローバル学生交流体験記●●

学術交流協定を締結している曲阜師範大学(中国)と慶南大学校(韓国)から10～15名ずつ学生を招聘。約3週間にわたり本学学生とともに学内外の様々な場所で学習や交流を行っています。

～グローバル学生交流を通して～

社会福祉学部  
社会福祉学科2年  
河野 宏基さん



日本語の講義

教養科目「国際交流a」の授業の一環で、学生交流団の団長を務めました。3週間という短期間でしたが、中国・韓国からの留学生と交流することで、多くのことを学ばせていただいたと思っています。

交流中は、日本人学生と留学生が友好的に接し、互いに充



山口市内見学

実した時間を過ごしていました。日本と韓国・中国の間には、領土問題など政治的な面でぶつかることがあります。学生同士の交流を通してみると、本当にそんな問題があるのかと不思議に思っばかりでした。

授業で留学生との交流を振り返る中で、興味深い話がありました。萩市内を見学した際、日本人学生は「長州ファイブ」について留学生に説明しました。長州ファイブの一員である伊藤博文の話をする、韓国の学生たちは顔を見合わせました。伊藤博文は、日本では近代日本を切り開いた英雄として称えられていますが、韓国では韓国統監府の初代統監であった歴史があるため、なぜ日本で英雄として称えられているのか疑問に思ったとのことでした。こうした面からは、歴史的な文化の相違を感じました。



日本文化体験(着物)

今回、グローバル学生交流で体験した内容のひとつひとつが新鮮でした。団長としての役割を担うことで、大変なこともありましたが、他の学生よりも交流の機会を多く持つことができよかったです。これからも、グローバルな交流や活動に参加していきたいと思っています。



修了式でのあいさつ

## Topics

### ■災害ボランティア実行委員会がちボラYP勇気が、コープやまぐち主催「第7回女性いきいき大賞」にて「コープやまぐち奨励賞・学生の部」を受賞(地域づくり分野)

「コープやまぐち女性いきいき大賞」は、女性が中心となってコミュニティ活動やボランティア活動、NPO活動等にチャレンジする団体を表彰し応援することで、活動が地域に広がり、さらに地域が元気になることを期待して贈られるものです。

「ちボラYP勇気」は、社会福祉学部の学生を中心とした団体で、東日本大震災後、「山口県からできること」「現地の声を集めること」を意識しながら活動してきました。特に現地ニーズに合わせた物資支援活動や地域住民と連携した防災意識向上のための活動が評価されるとともに、今後の活躍にも期待され表彰されました。



写真提供：生活協同組合コープやまぐち

### 本学への寄付(H25年度上半期分)H25.9.15現在

(五十音順)

相本 艶子 様	小栗 文子 様	種田かをり 様	萬代 妙子 様
安藤 康子 様	小田 道子 様	塚本 好恵 様	久永 洋子 様
荒木 嘉代 様	風岡そのこ 様	土田 敏子 様	廣田 直子 様
飯田 暢子 様	片桐 郁代 様	寺嶋紀美代 様	福田百合子 様
石合ヤエ子 様	川畑 恭子 様	徳富 克子 様	藤井由佳子 様
石松 壽子 様	河村 恵子 様	中磯 和代 様	藤麻 功 様
伊勢島田鶴子 様	木下万里子 様	中澤 允子 様	藤本 澄子 様
稲田あつ子 様	熊本 玲子 様	中芝 晶子 様	古川 綾子 様
井上眞知子 様	黒木美代子 様	中村ミエ子 様	松崎 貞子 様
岩野 雅子 様	近藤千代子 様	西岡 弘子 様	松村 幾子 様
江里 健輔 様	近藤眞知子 様	西田 健一 様	村井 治美 様
大井タツ子 様	椎木 幸子 様	西山香代子 様	師井 貢世 様
大年 嘉子 様	清木 秩子 様	西脇 末美 様	矢儀 保子 様
岡田 陽子 様	高橋 稔道子 様	乃木 章子 様	安光 裕子 様
岡部 聡子 様	武智 典子 様	野村美智子 様	吉村 京 様
小川 雅子 様	田中 晴美 様	長谷川美葉 様	
沖村 恵子 様	田中 光子 様	林 栄美子 様	

●株式会社エクスセルシャノン

●株式会社シンラテック

●生活協同組合コープやまぐち(寄附講義)

●株式会社田中組

●田村建材株式会社

●株式会社銘建

●株式会社安成工務店

●山口県立大学教育後援会

●山口県立大学同窓会桜園会小野田支部



ほか16件

計91件 合計2,940,800円

(うち「さくらの森夢基金」計85件 合計1,948,000円)

ありがとうございました。

### 編集後記

平成25年9月秋分の日 渡邊 隆之(経営企画部長)

耳をすませば・・・キャンパス内の木立ではツクツクボウシ(蝉)が夏の終わりを告げる大合唱、草むらの鈴虫たちは秋の気配を彩る演奏、それぞれの居場所で季節のうつろいを精一杯知らせてくれています。

さて、最近、印象的だったのは、IOC総会での東京五輪招致の最終プレゼンテーション。場面・役割にふさわしい発言に加え、声色や表情、態度や仕草も、人々が想いを伝える、読み取る重要な情報であることをあらためて示してくれました。

本学においても、地域とのかかわりでは、直接、現地に出かけて対話することを重視しながら、人々がその地域で輝き続けるために、どのような現状・課題があって対策が必要なのか、考えられるのかを共に真剣に探求しています。成果も期待されますが、まずはそのマインドを持つ人材=貴重な財産の育成を目指しています。

皆様方のご理解・ご支援をいただければ真に幸せです。



〒753-8502 山口県山口市桜島3丁目2番1号

Tel.083-928-0211 Fax.083-928-2251

http://www.ypu.jp/

※Web動画配信も行っています。

国際交流プログラムの一つとして、カナダからの留学生が小学生に絵本の読み聞かせをしているところです。(下関市吉田公民館)

※地域の国際化に資する取組として、留学生を地域の学校や行事に派遣しています。